

ごみ処理広域化検討会議（天川サミット後）会議録

日時：平成27年6月11日 午後5時～5時30分

場所：天川村山村開発センター2階 農林研修室

首長出席者：[REDACTED]、天理市長、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]、
[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]

※[REDACTED]は欠席

県出席者：[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]、
[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]

天理市側：建設企画課長(井上)、係長(山下)

天理市長挨拶

市町村長サミットの後、貴重な時間をいただき、また[REDACTED]にもご出席をいただきありがとうございます。今日は非公式なキックオフというつもりで開催させていただいた。知事から「奈良モデル」の主要な柱の一つとして本件を意識いただきながら「ごみの広域処理」を考えていただいたと思っている。ごみ処理は、最も基礎的な事業で、本市は新設に踏み切った。どうせやるならば、県内の市町村で可能な限り広域化を行って「奈良モデル」の中で進めて行きたい。歳出が増える中で、どんな行革をやってもこれだけの効果を上げることは難しいと考えている。本日、会議までこぎつけるにあたっては、[REDACTED]、[REDACTED]はじめ県の方々には関係市町村との調整を行っていただきありがとうございます。

[REDACTED]挨拶

広域化については、県が支援させていただく。調査から計画段階、施設整備までの一連を支援する。南部地域では、受益に応じてイニシャルコストの負担をしようという考えが出ており、参加市町村の「ごみ量」などが一つの基準になると思う。施設については国の財源や交付税措置を除いて、一部を負担させていただくことが基本的な進め方。立地がないと広域が出来ないので天理市のイニシアティブで立地をして処理しようとするのは素晴らしい試みと思う。

天理市長<資料を市長が説明>

(天理市クリーンセンターの移転・新設および処理の広域化について参照)

全国市長会にあわせて上京した際に、[REDACTED]、[REDACTED]に状況を報告した。[REDACTED]から、環境省廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課長を紹介いただき、国の交付金が大きくなる中、発電や熱源の奨励を進めている中で2分の1補助になっているが、平成30年度までの時限措置になるとのことなので、平成30年度末までに交付決定を受けたものが対象になるとのこと。これから外れると3分の1補助になり、その差が結構大きくなる。平成28年の環境影響評価から交付金を受けるとなると、本年度の12月の各市町村議会において、一部事務組合になった場合、一部委託が混じるかも分からないが、議決いただき交付申請を行って参りたいと考えている。このようなスケジュールの中で夏には表に出さないが首長会議をやっているスピード感で、これから担当部課長レベルの検討会議をやらせていただく。そこで枠組みや合意いただく最低限の負担のあり方のスキームや持込の場合に大型車に積み替えていただくということでないかと市民感情があり難しいところがあると思う。これを合意する

ことがチームメンバーとしてやっていく上で不可欠である点を整理させていただき、その上で夏ごろには首長会議、各9月議会では根回しを行いながら、12月の議決に向かっていくと考えている。また本市の地元説明は町の役員レベルでやっている。本市は6月議会で用地測量、地域計画策定委託の予算措置をしている。焼却施設の規模は人口減を考えても300トンレベルになり、本市では実質負担で建設費用が10億程度、年間維持費が1億程度変わってくる。これをしっかりやっていくことで各市町村の今後の財政の上でも非常に評価が上がると思うので、県の力添えをいただきながら、チームとしてやっていただくための最初のスキームを合意いただけたらと考えている。

意見1-1 ()

天理市は測量などの予算を補正で経上していると。議会への対応はどうなっているのか。

回答1-1 (天理市長)

議会へは昨年度末の段階で、広域を前提としたスケジュールや場所などを説明している。本市選出の県会議員にも説明し、現在明確な反対は無い状況。一番大事なのは地元説明。

意見1-2 ()

6月議会にごみ中継基地の建設を補正予算(3億円)で経上している。住民の反対があり移設した。今後、()では「ごみをどう考えるのか」必ず出ると考えているので、どの程度、議会の中で話をするのが良いのか。Q&Aをいただいているので「天理市から打診をいただいた」と説明をさせてもらっても良いのか。()は()との問題があり、来年の4月以降は焼却しないこととなっており、民間委託するのに中継基地を建設する。()・()が新設するならば、返事はいただいているが、()も入れて欲しい旨を打診している。この話がしっかり進めれば、()に断りをしなければならぬ。片方を断り、こちらもつぶれば大変なことになる。一定の段階で「協定書」をお願いしたいと思っていたが、今の市長の説明では、それもやる必要が無いと。

回答1-2 (天理市長)

冬には議会の議決をもらうので、やる必要は無いと。

意見1-3 ()

それでは、()としては6月議会が終わった段階で()に「結構です」と次のステップに行くとお断りをする必要があると。できるだけ早く手を打っておかないと()に悪いので。

回答1-3 (天理市長)

天理市は議事録に残る形で議会質問を受けていない。全体協議会で話をしている。山添村、川西町、三宅町の話は今の枠組みなので出している。地元区長に持っていくときには「広域で300トン後半」という数字が入った状態の資料を出している。市町村によっては、市議会や事業者には「ここは焼却施設」として資源ごみなどを切り離した状態で「収集運搬などは変わりません」と。そこは、それぞれの状況に応じてということになる。天理市から今の時点で市町村名の公開はしません。天理市でそういうことを検討しているということは言ってもらっても、「新聞に掲載されましたのでその中に入って検討している」という言い方であれば。

意見1-4 ()

300トン後半を想定している。

回答1-4 (天理市長)

すべて参加いただいて、1.2を掛けて370トンになる。2日前に()の施設を見てきたが、ある程度人口減を見据えながらやっている。

意見1-5 ()

()としてはぜひお願いをしたい。

回答1-5 (天理市長)

具体的に一緒にやって行ける条件面を事務レベルでしっかり詰めていくことが大事になる。

意見2-1 ()

私共もお願いしたいという立場。事務組合を立ち上げることになるので事前に話をしておかなければならない。表に出す時期は自ずと決まってくる。西和7町は、いつも連携しているのでそういった状況はすぐに伝わる。議会で表に出す時期は一定にしておかないと。事務的にも詰めておかないと。

回答2-1 (天理市長)

だいたい6月議会で根回しを開始していただくという感じで一部ご相談させてもらっている所がある。

意見2-2 ()

事務方に聞いたのが9月ごろと。もう6月議会に入っているの。

回答2-2 (天理市長)

12月をゴールとして、そこで問題が起きるとか、9月に言い始めてから全体像が分からない段階でいろいろ問題が起きないようにすれば良いかなど。全部を事務組合にするのか、なにか委託の形が残るのかは検討になる。

意見2-3 ()

事務方から今月中ぐらいにどの部分に参加するのか判断をしておいてくれと話がありました。

回答2-3 (天理市長)

基本的には11の枠組みは焼却の部分だということ。ただ、川西、三宅、山添は資源ごみを含めてやっている。県から紹介いただいたところ、そこは自分の所で従前の体制でやると表明いただいている所もある。天理市もリサイクル部分をどうするのか。場所は「今の場所に残すのか」または「この隣接地にするのか」を含めて見定めなければならないので早急にどれだけの面積があるのか確定をし

ないと。6月の終わりから7月の初めにかけて市民レベルの説明会の依頼が来ているので、その後で大きくなったとか、こっちに持ってきますでは「持たない状況」なので、焼却だけやリサイクル系の参加もという話は早急にいただきたいと。

意見1-6 ()

は6月議会にしないと。「他はどこだと聞かれても言えない」と。

意見3-1 ()

あくまで天理市からもらったボールを受け取った。今は天理市と協議をしていると。

意見4-1 ()

天理市に運ぶのに10トン車が入らないと聞いている。積み替えができない。

回答4-1 (天理市長)

パッカー車でそれぞれの市町村が持ってくることで、車の台数的なところで無理になる。実際の積替え施設の大きさの関係で、このくらいになり台数はこのくらいになるという所は事務方で出していただければ。地元が減らして来てもらっていることを理解いただければ、絶対に10トンでなければならないとは思っていない。

意見5-1 ()

資源リサイクルのごみの広域化というのは、それほど望んでいないのか。

回答5-1 (天理市長)

独自処理されているものもあり、望まれていないものも。最後に1点だけ言わせていただくと、地元説明の中で農家などから心配をいただいている空気、水、車関係は汚染ではないと言っている。マイナス要素は無い、主観的なところだけなので我慢してくださいと地元では受け止められている。「県全体にもプラスになる事を引き受けるのに、地元振興は考えているのでしょよね」とひしひしと感じている。もちろん地元へ単純にお金を出すご時勢では無いと釘を刺しているが、振興策が電力なのか熱なのか、あるいは地元に喜んでもらえる要素はしっかり取り込まないと難しいと認識をしている。まだこの部分は、どのくらいの費用のものになるのか計画次第で分からないが、是非そちらの部分が計画を進めていく上で不可欠な要素だとしてご理解をいただき、何十億というものを隣に建てたいといわけではないつもりですが、そこは是非ともご理解いただければと思います。環境省や総務省は熱の有効活用の研究を進めているということなので、天理市も情報収集をやっていきながら、少しでもいい話として地元にも受け入れられるように取り組んでいきたいと思っているので、そちらについても結局は財政的な負担につながってくるがご理解いただきたいと思います。